函館市医療・介護連携推進協議会　情報共有ツール作業部会

臨時会議　会議録（要旨）

１　日　　時

令和８年６月１日（月）１９：００～１９：３０

２　場　　所

函館市医師会病院　５階講堂

３　出席状況

メンバー：亀谷部会長，森田幹事，中野メンバー，星野メンバー，柴田メンバー，
岡田メンバー，石井メンバー，青木メンバー，松野メンバー，吉荒メンバー，
保坂メンバー

部会運営担当：函館市医療・介護連携支援センター）近藤，花輪

事務局：函館市保健福祉部地域包括ケア推進課）小川，川村

オブザーバー：函館市医療・介護連携支援センター）
在宅医療連携拠点運営事業担当　佐藤
ほくと・ななえ 医療・介護連携支援センター）眞嶋
社会医療法人高橋病院）滝沢法人情報システム室長

４　議　　事

〇協議事項

（１）ＬＩＦＥ情報と連動した連携サマリーについて（資料１，２，３）

５　そ の 他

・次回の第２回もしもノート研修会について

６　会議の内容

川村医療・介護連携担当

ただ今から，函館市医療・介護連携推進協議会　情報共有ツール作業部会の臨時部会を開催いたします。前回の会議でも確認しておりますが，この会議は原則公開により行いますので，ご了承願います。

次に，第２３回会議の会議録ですが，事前にメールで皆様にお送りし，内容をご確認いただきました。特に修正等のご意見はございませんでしたので，会議録を確定させていただき，市のホームページ上で公開させていただきます。

本日の会議には，メンバーの皆様のほか，高橋病院法人情報システム室室長　滝沢礼子様にご参加いただいております。よろしくお願いいたします。

本日は，はこだて地域医療連携実務者協議会の熊倉慎治様が所用により欠席となっており

ます。また，事務局に人事異動がございましたので，ご紹介いたします。前任の渡辺に変わり，４月１日から異動になりました小川です。小川からも一言，ご挨拶を申し上げます。

小川医療・介護連携担当

皆様，お忙しいところお疲れ様です。４月から人事異動で渡辺の後任で参りました，小川春奈と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

川村医療・介護連携担当

それでは，本日の資料を確認させていただきます。机上に，会議次第１枚と資料を配付しております。また，座席表と出席者名簿を配付しておりますが，全てお揃いでしょうか。

本日の会議の議事の進行につきましては，皆様の特段のご配慮とご協力をお願いいたします。それでは，亀谷部会長お願いいたします。

亀谷部会長

皆さん，暑い中お疲れ様です。今日は，議題はそこまで多くはないですが，円滑に進めてまいりたいと思いますので，ご協力お願いいたします。

早速，高橋病院の滝沢様から，ＬＩＦＥ情報と連携した連携サマリーについての説明をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

滝沢オブザーバー

高橋病院の滝沢です。配付資料ですが，下から２枚を取っていただいて，本日はこの資料を元に，ご説明していきたいと思いますので，よろしくお願いします。

前回の部会でもご説明させていただきましたように，ＬＩＦＥ様式というのはこの表では２３なのですが，１つの様式に混ざっているものがありまして，全部で２１種類となっております。これを全て連携サマリーに組み込むというのは，様式的にも大変なので，昨年函館市の指導監査課に加算算定率を出していただきました。こちらの表が示すとおり，それぞれの加算と，どのサービス種別が何パーセント取っているという情報がわかりますが，その中で５０パーセント以上の事業所が取っている加算に絞って，まずは利用率の高い加算を組み込んでいこうということで８様式とし，前回ご承認いただいたと思います。

今日はそれについて，具体的に説明していきたいと思います。配付している資料は，連携サマリーの基本シートと，ＬＩＦＥの資料は「科学的介護推進に関する評価（施設サービス)」,「排せつの状態に関するスクリーニング・支援計画書」,「自立支援促進に関する評価・支援計画書」の３様式で，全部で４枚です。その他の資料については，画面に投影もしておりますので，併せて説明していきたいと思います。

まず，１枚目の基本ツールでは，昨年，身体・生活機能等の食事やＡＤＬの部分を，科学的介護に揃えて，バーセルインデックスに変えていただいたという経緯があります。こちらの情報を，科学的介護の評価の部分に，どう転記されるかということを説明したいのですが，科学的介護を写したときに，氏名と生年月日，性別，要介護度など，障害・高齢者の日常生活自立度，認知症高齢者の日常生活自立度が，基本ツールから連動されているということが，紙上でも，投影上でもわかるかと思います。その下に，診断名が書いてありますが，診断名

は，基本ツールの医療情報等の病名と連動するようになっております。
その下ですが，ＡＤＬのバーセルインデックスが，１枚目の基本ツールと連動して，チェックがつくようになっております。項目はそれほど多くなく，その下にいくと，身長と体重，義歯の使用，歯の汚れ，むせ，歯肉の腫れといった，基本ツールと揃えていただいた項目は，それぞれ連動するような作りになっています。科学的介護の様式が一番，サマリーと連動項目が多いものとなります。これまでのところで何かご質問等はございますか。（なし）
続きまして，「排せつの状態に関するスクリーニング・支援計画書」についてです。こちらの項目もそれほど多くはなく，先ほど説明した基本情報の氏名から，自立度までとなります。その下にＡＤＬがあるのですが，排泄に関わるトイレ動作，排便・排尿コントロール，これが連動されるような状況になります。他に連動されている項目はございません。続いて，「自立支援促進に関する評価・支援計画書」についてです。こちらの基本情報の氏名から日常生活自立までが，基本ツールと連動しております。配付した様式に関する説明は以上です。
次に，診療計画書も同じような形の連動となっていますが，他はあまり項目が多くなく，例えば，口腔衛生管理加算の部分でいうと，基本情報のところだけ，あとは，似たような項目はありますが，それぞれ専門的なチェックがかかるというところで，単純に連動はさせていない状況です。栄養・摂食嚥下はさらに細かくて，全く連動はされておらず，ほとんど基本情報だけになっています。また，リハビリテーション計画書も，ほぼ基本情報だけになっています。ここのＡＤＬ情報をどうしようかということも検討したのですが，やはり専門家の目で見た評価というのもあると思い，あえてここも連動はしておりませんでしたが，ご意見を伺いたいと考えておりました。以上です。

亀谷部会長

ありがとうございました。前回の部会からの流れで，ＬＩＦＥと連動したサマリーをどうするかが議論になってくると思うのですが，皆さんから意見を聞く前に，私の方からいいでしょうか。事務局とコアメンバーで一度話をさせていただきました。
現在，「はこだて医療・介護連携サマリー」の１つの様式を多職種で使っていただけるような形ですが，ＬＩＦＥ加算というのは，今でも介護事業所で使われている加算で，今後介護施設はこの加算を取って経営を高めていきたいけれど，ＬＩＦＥの手続き，加算入力などの忙しい部分は，なかなかできていない，手が届かないというミスマッチの状況も見られています。そのため，コアメンバーとしては，これを表向きの正式なツールではなく，来年の４月にある介護報酬の改定により，もしかするとこの項目も若干変わる可能性もあるかもしれないということを踏まえて，パイロット版という形で「はこだて医療・介護連携サマリー」はＬＩＦＥ加算にもある程度即しているツールとしてホームページ上に公開したいと思います。ＰＲも含めて，ＬＩＦＥ加算の重要性について介護施設は重々わかっていると思いますので，そういう前提を踏まえた上で見ていただき，各事業所の方に使っていただければと思います。ＬＩＦＥ加算自体は必須ではないですが，国は将来的なデータの収集・活用を推進しており，こうした方向性を踏まえてＬＩＦＥを活用する事業者も多いと思いますので，連携するツールがマッチしないというのは，考えにくいということもありました。今日の部会としては，まだ確定されていない項目もあるかと思いますので，滝沢さんに見せていただいたものをパイロット版として公表して，道南医療圏の医療・介護関係者に触れていただき

たいという思いも込めて，進めていきたいというのが事務局の思いです。これを踏まえてご意見を伺いたいと思いますので，青木さんからお願いします。

青木メンバー

ＬＩＦＥ加算については，まだ全然手を付けていなくて，今はデータ連携との取り組みなど，少しずつ自分たちがやってきたやり方を変えて，新たなものを取り入れていかなくてはいけないと思っています。頭は切り替わりつつあるので，やはり得な方というか，どうしても国の考えていることに沿った方が加算も取れるということで，より使いやすいツールがあった方が魅力的だろうなと考えて見ていたので，アピールになると思いました。

亀谷部会長

今は介護情報基盤など様々なものが出ていますからね。日々忙しい中で色々大変かと思いますが，ありがとうございます。

松野メンバー

コアメンバーとしてこの話し合いの中に入らせていただいたのですが，正直なところ在宅側で，ＬＩＦＥにまだ触れる機会自体がそもそも少ないというのもあって，ＬＩＦＥを知る機会にもなるのではということで，パイロット版として出すことで腑に落ちたという感じでした。まずは触れていただいて，ＬＩＦＥがどんなものなのかというのを我々自身が知るところからスタートしていいのではということで，青木さんがおっしゃったとおり，補助金の関係などもすごくハードですよね。補助金や加算の関係など，落ち着いてきた段階で少しずつ触れていければと我々自身も思っているので，一緒に勉強していきたいです。

吉荒メンバー

老健の算定が一番高く，私の職場でもかなり前から取れるものは取ろうと，ほとんど算定しています。同じ老健でも，積極的に取り組んでいるところと，そうではないところの差が結構あると思うので，理解が進んでいないところもあると思います。まずは，１回考えていく必要があると思っていました。在宅に取り組んでいるところは，他の部署でも理解が進んでいますが，どう発信していくかは考えていかなくてはならないのかなと思います。

亀谷部会長

やれているところ，やれていないところというのは，業務の振り幅で違うのだなと，さらに分かりました。では，保坂さんお願いします。

保坂メンバー

コアメンバーと話をしたとおりですが，国は在宅にＬＩＦＥを進めている最中なので，いずれは下りてくるだろうと思います。その前に，トレーニングしておけばいいと思います。使ってみて，どこをどう変えればサマリーと上手くリンクするのかというのが，この１，２年の間に見えてくれば，一歩前進すると思うので，やってみましょうという話になりました。

石井メンバー
私もパイロット版として各事業所の方に触れていただいて，現場の声というか，実際触っていただいた声も伺いながら，サマリーの拡大につなげる効果もあるのかなと思います。

亀谷部会長
そうですね。先ほど言い忘れましたが，パイロット版をホームページに掲載し，問い合わせにＱ＆Ａで回答して，現場の声を聞く取り組みはしようかなという話もしていました。

岡田先生
僕もまだ使ったことがないので分からないですが，これだけ加算を取っているところがあるので，ＬＩＦＥと連動させて転記できるようにして，サマリーが使いやすいと思ってくれればいいと思います。ぜひやっていただきたいです。

柴田メンバー
私も前回初めてＬＩＦＥというものを知って，少し検索したくらいのレベルですが，やはり医療と介護をつなぐツールというか，紐付けできるものがある，情報がきちんとつながるというのは，素晴らしい取り組みだなと思っていました。

星野メンバー
私は薬剤師なので，正直わからなくて，ＬＩＦＥとは何かというレベルなので，お話しするのが恐縮ですが，連動しているというお話があり，使いやすいものであればいいのかなということと，国がそういう方向であれば，やるしかないのかなと思っております。

中野メンバー
前回欠席してしまったので，議事録を読ませていただいたのですが，ＬＩＦＥの様式というのは，決められているものなのですか。全員がこれに入力や記入していくものなのですか。

滝沢オブザーバー
はい。加算算定のためには必須になっています。

中野メンバー
この様式なのですね。そこにうまく連動させているということで，もう一枚これを書いていかなければいけないのですね。そういう意味では，連携サマリーが，非常にこれから利用者が増えてくるのではないかなと期待しております。我々も直接ＬＩＦＥ加算を算定する立場ではないのですが，歯科の部分も必要最低限に連動されていて，とてもいいと思いました。

亀谷部会長
ありがとうございます。皆様から意見をいただいて，概ねコアメンバーと事務局で話した回答の形で持っていければよろしいかなと思っています。あまり固く考えず，たまたま病院がＬＩＦＥ加算の書式を使ってサマリーを流したら，施設や老健の患者さんが転院した。そ

こで「ＬＩＦＥの加算のシートがあるじゃないか，これはぜひ使おう」となってくれれば，しめたものですが，おそらくそこまで気づく，意識している医療機関もまずはないと思いますし，そういうところからの啓蒙啓発になると思うので，このＬＩＦＥの形が，来年またはその３年後，どこかで医療機関にも，その条件などが影響してくるはずだと思いますので，ホームページ上にパイロット版として，ＬＩＦＥを連動したサマリーをアップさせていただきます。その代わり，ただアップするのではなく，パイロット版としてこういう形で上げますというのを事務局に作っていただきますので，また皆さんにはそのページ見ていただいて，いろんな機関に周知も必要になってくると思いますので，そういう形で取り組ませていただきたいと思いますが，よろしいでしょうか。（異議なし）

ありがとうございます。皆さんご賛同させていただきましたので，このような形で取り組ませていただきます。滝沢さんの方から，お願いします。

滝沢オブザーバー

今回これが実現できたきっかけというのが，まだＬＩＦＥの算定率も低い中で，はこだて医療・介護連携サマリーの基本ツールのＡＤＬの部分と，口腔衛生のところについてご理解いただいて，科学的介護に合わせていただいたというのが，とても大きかったと思っております。福岡国際医療福祉大学の松田先生と当院院長の高橋から，２年前にお話させていただいてから期間も経っていますが，このような形で，説明できてよかったと思いますし，本当にありがとうございます。今後ともよろしくお願いします。

亀谷部会長

ありがとうございます。その他ですが，次回の第２回もしもノート研修会について，運営担当の幹事から説明をお願いします。

森田幹事

第２回もしもノート研修会についてですが，次回は７月頃に開催予定で準備等を進めております。詳細が決まり次第，あらためて部会メンバーの皆様にお伝えいたします。

なお，研修会当日には，皆様にグループワーク等のファシリティテーターのご依頼をさせていただく予定です。恐れ入りますが，ぜひご協力のほどよろしくお願いいたします。

亀谷部会長

今日は短い会議ですが，どうしても皆さんに承認をいただきたく，正式なツールではないですが，パイロット版という形で，連携サマリーを一歩，二歩と進ませていきたいです。お時間をいただきありがとうございました。今日はこれで終わりですが，最後に何かご意見，ご質問等はございませんか。（なし）

なければ全ての議事が終了しましたので，進行を事務局にお返しします。

川村医療・介護連携担当

亀谷部会長，ありがとうございます。それでは，以上をもちまして，函館市医療・介護連携推進協議会の情報共有ツール作業部会　臨時会を終了いたします。皆様，お疲れ様でした。